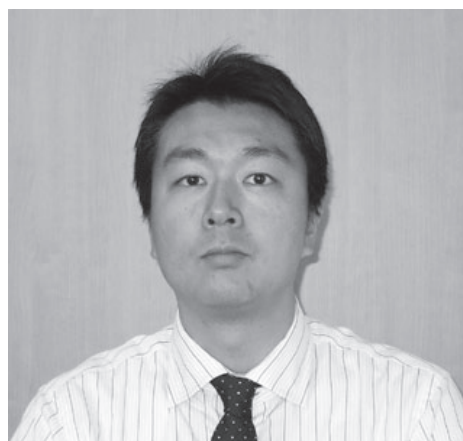


エンジン再生技術の プロフェッショナル

日本エンジン株式会社（愛知県稲沢市）

今回は「日本エンジン株式会社（愛知県稲沢市奥田大沢町10、高橋剛社長、☎0587-21-5591）」取材した。同社は1947年（昭和22年）創業。産業機械用、建設機械用、車輛用、発電機用などエンジンのオーバーホールや主要部品の修理、再生事業を行っている。リビルトエンジン（オーバーホール完了エンジン）に関する開拓者であり、リーディングカンパニーでもある。エンジンの高度なリビルト（再生・再利用）技術を駆使して、新品同様の性能を備えたリビルトエンジンを低価格で市場に供給し続ける日本エンジンの取り組みを紹介する。



高橋 剛 社長

創業の経緯

日本エンジンの創業者は高橋幸雄氏。三代目となる現社長の高橋剛氏の祖父である。創業日は1947年（昭和22年）7月17日。今年で創業66年目を迎える。

幸雄氏は現在の岐阜羽島出身で、戦前は愛知県一宮市にて呉服商を営んでいた。大東亜戦争後、将来の国土の本格復興を見据えて、自動車社会の到来を予見した幸雄氏は呉服商を廃業。それに代えて、1947年（昭和22年）7月、名古屋市中区松原に「三エス興業株式会社」を設立した。エンジンの主要部品であるシリンダーブロック、シリンダーヘッド、クランクシャフトなどの修理、再生事業に着手した。

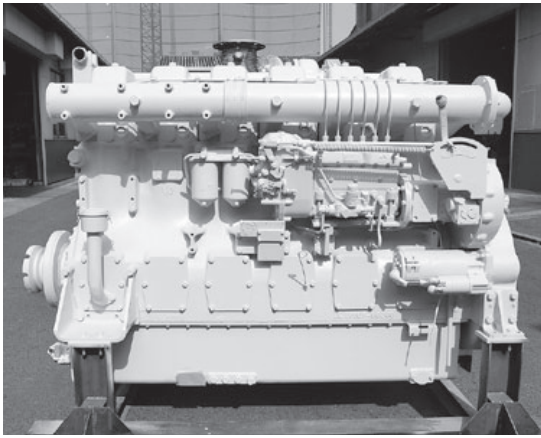
三エス興業は1960年（昭和35年）8月、名古屋市南区塩屋町の約300坪の敷地に「笠寺工場」を建設し、エンジンのオーバーホールを社内で一貫して行う新事業に乗り出した。



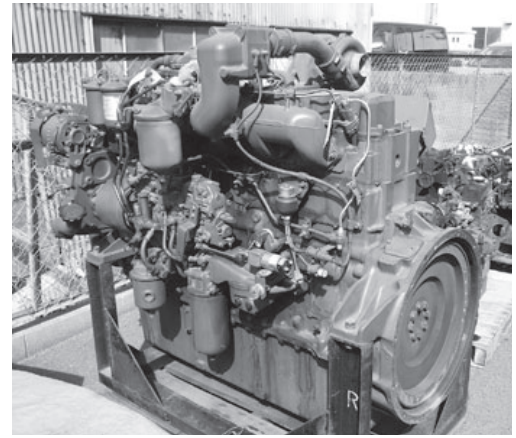
稲沢工場

笠寺工場は3階建てで、1階に車輛用エンジンの部品修理スペース、2階に車輛の部品修理スペース、3階に噴射ポンプのオーバーホールのスペースを設けている。

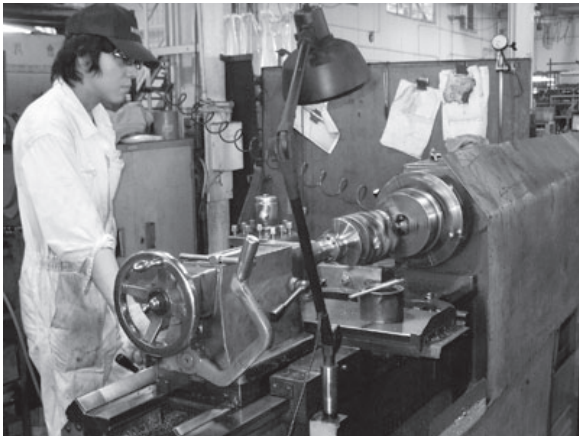
その後、笠寺工場では、オーバーホール完了品であるリビルトエンジンの在庫販売を開始し、好評を博している。また、笠寺工場は1965年（昭和40年）4月、「カヤバ商事株式会社」（現KYBエンジニアリングアンドサービス株式会社）より、油圧機器に関するメーカーのサービス修理指定工場として契約を締結した。次い



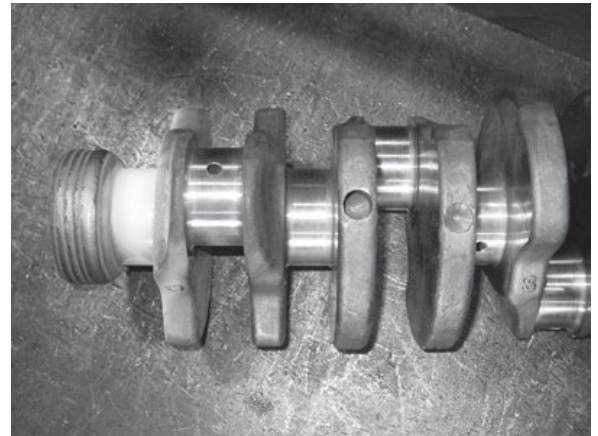
オーバーホールを完了したリビルトエンジン



リビルト前のエンジン



クランクシャフトの研磨作業



肉盛り・研磨を終えたクランクシャフト

で、1966年（昭和41年）11月、「エンパイヤ自動車株式会社」との間で、エンジンベアリングに関する販売代理店契約を締結し、部品販売を手がけるようになった。さらに、1967年（昭和42年）1月、「中部ディーゼル株式会社」（現シナジー株式会社）との間で、噴射ポンプ、パワーステアリング、ブレーキ倍力装置などに関するメーカーの修理指定工場として契約を締結した。

事業の変遷

三エス興業は1970年（昭和45年）4月、社名を「日本エンジン株式会社」に変更した。これを契機として、名鉄バスよりディーゼルエンジンのオーバーホールやエンジン部品の再生を請け負った。併せて、鉄道車輛のコンプレッサー、オイルダンパー、レベリングバルブ、差圧弁、ドアエンジンといった部品のメーカーサービス指定工場として修理・再生事業にも乗り出した。

続いて、1970年（昭和45年）5月、「名古屋三菱ふそう自動車販売株式会社」（現三菱ふそ

うトラック・バス株式会社）との間で、車輛用の内燃機関の協力サービス工場として契約を締結した。

事業拡大に伴い、日本エンジンは1972年（昭和47年）10月、愛知県稲沢市奥田大沢町の約1,400坪の敷地に「稲沢工場」を建設した。

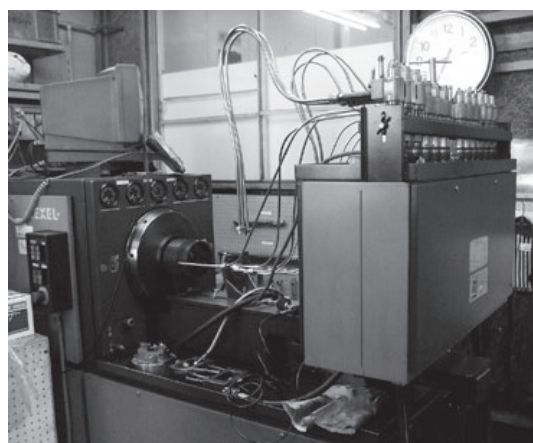
稲沢工場は平家建てで、笠寺工場から移設した噴射ポンプのほか、発電設備用、産業機械用、車輛用、冷凍機用のエンジンのオーバーホール、再生事業の専門工場として操業を開始した。

1983年（昭和58年）11月、二代目となる代表取締役社長として幸雄氏の息子の高橋幸美氏が就任した。幸美氏は、2006年（平成18年）5月、「ナブテスコサービス株式会社」との間で、サービスステーション契約を締結し、取り扱う製品ラインナップの拡大と製品の品質内容の充実化とを図った。

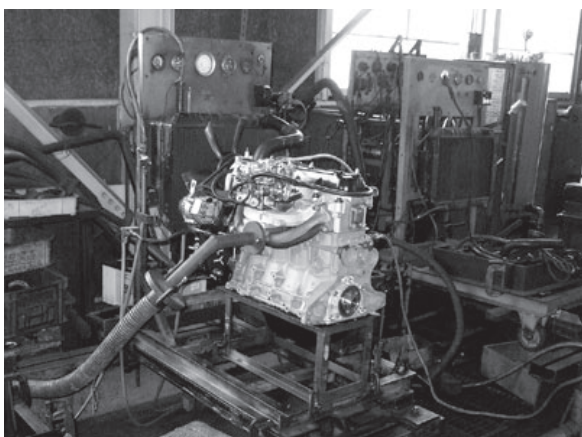
2011年（平成23年）2月、稲沢工場の敷地内に「新本社社屋」が完成した。それに伴い、それまで、名古屋市中区松原に置いていた本社機能を、新社屋へと移転した。組織の再編に並行



噴射ポンプの組立作業



噴射ポンプテスター



運転試験中のリビルトエンジン



納品待ちのリビルトエンジン

して、経営幹部の人事異動が行われ、三代目となる代表取締役社長として幸美氏の息子の高橋剛氏が就任して、現在に至っている。

発電機用エンジンの メンテナンスに注力

今日では、企業の活動には地球環境保全に貢献することも厳しく求められている。日本エンジンでは、経営理念として、「誠のプロフェッショナルチームとして社会の繋がりに貢献する」ことを謳っている。また、経営方針として3点を掲げ、「共に協力し、努力し、共に成長を目指す」「信頼され続けるエンジニアを目指す」「安心・安全で環境に優しい、ものづくりを通じ、幸せで素晴らしい会社を目指す」ことを目標としている。

日本エンジンでは経営理念、経営方針に基づき、例えば稲沢工場ではエンジンのオーバーホール時に出るエンジンオイルを処理するため、「配水処理装置」を設置し、工場から出る

排水の無害化を実現している。

そもそも日本エンジンが実践してきた、使える部品や機器などを捨てずにリビルト（再生・再利用）して使う、既存資源の有効活用とは、産業廃棄物の削減や環境汚染の低減など地球環境保全にもつながる。また、ライフサイクルでのCO₂排出量抑制にもつながる。低炭素社会実現へ向けた「ものづくり」のあり方を示唆するものとして、リビルト商品は今後ますます重要性を増してくるだろう。

日本エンジンでは、引き続き、電力会社の供給能力不足が懸念されている中で、今後は特に自家発電設備用エンジンの定期メンテナンスの受注獲得に注力していく。それと併せて、同社がオーバーホールを施した高品質リビルトエンジンを市場に浸透させ、新たなユーザー獲得に努めるとともに、CO₂排出量削減・イニシャルコスト削減を両立させるリビルトエンジンを市場に普及させ、地球環境保全に一層貢献していく。